

令和8年3月4日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	江東区立第五砂町幼稚園
所在地	江東区東砂7-5-27

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「やってみよう」が生まれる環境
ごすなランドを作ろう（年長組1月）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）
学級が少人数のため、アイデアが少なかったり、偏ったりする。
様々な体験をすることで興味や関心の幅を広げられるようにしたいと考える。
年長組の幼児がごすなランドの企画、取り組み、運営を行い、様々な考えを出し合いながら自分たちで取り組むことで、幼児が達成感や満足感を味わい、自分たちの成長を感じられるようにしたいと考えた。

2. 活動スケジュール

1 2月17日（水）あらかわ遊園バス遠足
1月16日（金）～2月9日（月）ごすなランドの活動
2月10日（火）～2月20日（金）ごすなランドの遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・年長児バス遠足（あらかわ遊園）
- ・こども会議（ごすなランドのアイデアを出し合う時間）
- ・共通の体験をもとに、幼児が再現できるような素材と場の確保
（キャスト、段ボール、カラービニール、モール、リボン、キラキラテープ等）
- ・乗り物を動かしながら、十分に試行錯誤する時間と場の確保
- ・乗り物を使ってたくさん遊ぶ時間の確保
- ・様々な人を招き、関わって遊ぶ機会の設定

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- ・バス遠足（グループの友達と乗り物を見たり、乗ったりする。共通の楽しい経験を行う。）
- ・幼児が体験したことを再現する、遊園地ごっこ（ごすならんど）の活動
- ① 設計図作り
- ② 乗り物作り（メリーゴーランド、ジェットコースター、動物汽車）
- ③ 運営に必要な物の製作
- ④ ごすならんどの開催、運営（保護者、年少組、年中組、教職員、未就園児（あずかーる、かんがるー）を招待する）

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

【あらかわ遊園の遠足】

- ・グループごとに相談しながら乗り物を決めて、乗ることを楽しむ。

学級全体でふわふわドームを体験すると「そら組みんなでできて楽しかった、嬉しかった」という言葉がたくさん出てくる。

- ・遠足の体験を再現し、年少組年中組さんにも楽しませてあげようという気持ちをもつ。

【ごすならんどを作ろう】

- ・活動を進める中で、「本物みたいに動く乗り物が作りたい。」「二人乗りができるといいよね。」「大人も乗れるようにしたらいいよね。」と様々な意見が出てくる。

- ・自分が作りたい、乗り物を決めて、ワクワクしながら友達と相談して作っていく。

- ・教師は幼児のイメージしたものを、作れるように様々な素材を用意し、幼児が自分たちで素材を選び、作っていけるようした。

- ・早速乗り物ができると「乗ってみて」と自分たちが作ったものに、友達を繰り返し乗せて遊ぶことを楽しんだ。また、互いに、役割を交換しながら進めていく姿も見られた。必要な物について知らせたり、自分の意見を言ったり、相手の話も聞こうとしたりと、言葉のやりとりも増えた。

遊びを進めていく中で幼児がさらに必要な物を考えて作ったり、イメージキャラクターも出てきたりした。

【ごすならんどの開催】

- ・保護者を招き、作った乗り物に乗ってもらったり、運営を代わってもらい自分たちがお客さんになる経験を行ったりしたことで、遊園地ごっこを十分に楽しむことができた。

- ・在園児を招待することで、年長児としてごすならんどの運営を主体的に行い、自分たちの成長を感じる機会となった。

- ・未就園児を招待した際は、優しく丁寧に関わる姿が見られ、様々な人との関わりについて学ぶ機会となった。

<活動の様子>



5. 振り返り

- ・遠足という共通の体験があることで、幼児が自分の意見を進んで出していた。
- ・協同の活動を積み重ねることで、幼児同士が言葉での伝え合いを行いながら、友達と楽しんで活動を進めていく姿が見られた。
- ・素材が多くあることで幼児のイメージを実現することができた。
- ・共通の目的に向かって、幼児の得意なことやよさが出せることで、幼児の自信につながった。
- ・年少組、年中組、あずかーる、かんがるーひろばの未就園児のこどもたちや保護者等、様々な人の関わりを通して、相手の動きに合わせてたり思いを計ったりする等、自分なりに考えて動くことする姿がたくさん見られた。
- ・人の役に立つ喜びを感じ、自らの成長を感じることができた。

以上